

宗像市コミュニティ基本構想審議会【第1回】議事録

日時	令和6年3月28日(木) 14:00~15:30				
場所	宗像市役所 本館3階304会議室				
委員 (敬称略)	<input checked="" type="checkbox"/> (有識者) 山口 純哉	<input checked="" type="checkbox"/> (市民公募) 松山 道代			
	<input checked="" type="checkbox"/> (吉武) 野中 芳江	<input checked="" type="checkbox"/> (赤間) 杉下 啓恵	<input checked="" type="checkbox"/> (赤間西) 中谷 光子		
	<input checked="" type="checkbox"/> (自由ヶ丘) 高見 邦雄	<input checked="" type="checkbox"/> (河東) 西田 光生	<input checked="" type="checkbox"/> (南郷) 釜瀬 博志		
	<input checked="" type="checkbox"/> (東郷) 尾園 馨	<input checked="" type="checkbox"/> (日の里) 黒川 貞一郎	<input checked="" type="checkbox"/> (玄海) 吉野 秀治		
	<input checked="" type="checkbox"/> (池野) 寺尾 悦治	<input checked="" type="checkbox"/> (岬) 吉田 益美	<input checked="" type="checkbox"/> (大島) 藤島 正浩		
事務局	コミュニティ協働推進課	<input checked="" type="checkbox"/> 八木	<input checked="" type="checkbox"/> 田村	<input checked="" type="checkbox"/> 森	<input checked="" type="checkbox"/> 羽野 <input checked="" type="checkbox"/> 濱本

1. あいさつ

八木市民協働部長あいさつ

2. 委嘱状交付

委員へ委嘱状を交付

3. 自己紹介

委員名簿順に自己紹介

4. 会長及び副会長選出

審議会規則第4条2項に基づき、会長及び副会長は委員互選により選出する。

立候補者及び推薦者はおらず、以下の事務局案を提示し異議出さず決定。

会長 山口 純哉 副会長 松山 道代

山口会長あいさつ

松山副会長あいさつ

5. 諮問

諮問書の提出

6. 報告事項

事務局より資料に沿って内容説明

- (1) コミュニティ基本構想・基本計画とは(資料4)
- (2) コミュニティ基本構想審議会の役割と策定プロセス(資料5)
- (3) 策定状況の報告
・基本構想：成果と課題の整理について(資料6)
・基本構想：将来像と基本理念原案について(資料7)

【質疑応答】

委員 各地区の事務局長が策定部会に出ていると思いますが、議事録はあるか。どの程度意見が出ているか。

事務局 議事録はある。会議自体は1時間程度に設定しており、毎回宿題という形で意見をいただくようにしている。参考資料で検証シートを付けているが、その内容が出てきた意見と考えていただいてよい。

委員	出てきた意見を事務局が取捨選択していると思うが、策定部会員と意見を交換し意思を統一したものとなっているか。
事務局	正にそういったことをやってきている。策定部会員から出てきた意見に事務局がお答えし、キャッチボールをしながら資料をまとめている。
委員	資料6の課題に「市民参画条例の理念が薄れてきている」とあるがどういう意味か。
事務局	行政内部での意識が薄れてきているという意味で記載している。特に若い職員にはコミュニティがあることが当たり前と感じる者が多く、市民参画そのものの理念が薄れてきていることが課題と考えている。
委員	地域にもコミュニティの基本計画を理解していない人もいるので、行政だけでなく地域も理念が薄れてきているとしてはどうか。
事務局	そのようにさせていただく。
委員	資料6の自治会アンケートに新型コロナウイルス感染拡大を契機とした組織と行事の見直しについて記載があるが、コロナの関係で活動を見直したが、コロナが明けて見直した活動を維持しようとせず、コロナ前に戻そうという流れがある。現状としてアンケートの結果とは異なると感じる。
事務局	コロナを契機に見直しが進んだが、意図した見直しと、そうでないものがある。意図していない見直しだと、コロナ前に戻そうという流れになっており、成果であり課題でもあると考える。何が大事で、活動として残すかを議論しながら見直すという真の部分を描いていくのが基本構想の役割と考えている。
委員	私の地域では、コロナがよい機会となり、多くの自治会でよい見直しができている。
委員	協議会と自治会が一緒くたになっているが、分けて考えなければいけないのではないかと。
事務局	自治会だけではできないことをやるために、広域の協議会がある。一方で自治会は顔が見える関係性であり、防災や日々の見守りではより力を発揮する組織であり、役割を分けることが大事と考える。
委員	資料7の根の部分にあたるが、私の地域では、まちづくり計画が機能していない。半年に1回は事務局長会議で確認をしてほしい。先進事例があれば取り入れるきっかけにしたい。
事務局	今回の基本構想・基本計画策定が、地域のまちづくりを考えるよいきっかけになっていると考えているので、各地区においても見直しを行っていただきたい。
委員	チャレンジ交付金の審査・検証を事務局長だけですることに疑問をもっている。第三者で検証チームをつくって行うべきではないか。
事務局	おっしゃるとおりの部分もあると考えている。検証のありかたについては、今後検討していく。
委員	自治会加入率の低下について、どのような課題があると認識しているか。
事務局	自治会は地域活動の入り口になっている部分があり、自治会加入率の低下は死活問題となっている。宗像市では、この10年間で自治会加入率は約8%下がっている。若い方が加入しないというだけでなく、高齢になったから辞める、役が回ってきたから辞める、地区によっては隣組丸ごと辞めるということが起きている。まずは、自治会とは何か、自治会があることで地域の生活が快適になっているかを無関心の方に気付いてもらえるかが大切と考えている。

委員	市の方でその対策として、何をしているか。
事務局	毎年 11 月を自治会加入促進月間として、広報に力をいれている。次年度の取り組みとして具体的に地域の活動を紹介する記事を書けるように考えている。
委員	自治会に入らないことのデメリットを感じられない。条例で自治会加入を義務化することはできないか。
委員	地域の広報紙で自治会とは何かという記事を掲載し、大きな反響があった。行政に任せるだけでなく、地域側も努力をしないといけない。自治会加入を促進する条例については議員懇談会でも提案した。
委員	マンションのオーナーに入居者に自治会加入を促すよう協力依頼をしている。
委員	開発業者がマンションの建築申請が市に出てくると思うが、そこでの取り組みは行っているか。
事務局	開発業者に自治会加入に協力するよう指導を行っている。
委員	昨年 11 月のワークショップで「子ども」がキーワードとして出ている。いかに子どもを地域の活動に参画させ、親も地域に関わらせることができるかが自治会の加入率やコミュニティの様々な活動の促進につながると考えるので、ぜひその部分を基本構想に記載してほしい。
委員	自治会の加入率低下はどこでも大きな問題になっている。総務省が出しているデータによると、自治会に加入すべきものとして押せば押すほど、加入率低下につながっている。自治会加入の義務化を進めるよりも自治会があることのメリットを丁寧に説明することが大事と考える。
委員	資料 6 の自治会アンケートによる現状把握の課題にある自治会の役割と変化とは具体的に何かあるか。
事務局	祭りやイベントを中心とした自治会が昔は多かったと思うが、今は地域の見守り活動や防災が大きな役割となってきている。やりたい活動とやっている活動とのギャップが生じている。
委員	私の地域では防災の活動にシフトチェンジしているが、アンケート結果には出ていないか。
事務局	防災における数値は行政が考えているよりも高く、シフトチェンジはしてきていると思うが、祭りやイベントに時間が取られているという結果として出ている。
委員	市が防災や民生委員という仕事をもってきているので、自治会の負担が増えているのではないか。
事務局	その部分はあると思う。行政だけではできない部分があるので、宗像市としては役割分担してまちづくりをやってきている。その分、地域にお願いする仕事は出てくるので、マンパワーの割合の見直しが重要であり、組織や行事の見直しが必要と考えている。
委員	そもそものマンパワーが減ってきているので、今までできていた行事を減らさないといけない。地域が求めている基本構想としてギャップを感じる。
事務局	行事を減らすのか、やり方を変えるのか様々な見直しがあるので、その辺を皆さんのお知恵をいただきたい。
委員	地域によってコミュニティの位置づけが異なると思う。岬地区の人口は市内の多い地区の 10 分の 1 しかおらず、子どもを参画させようとも子どもがいない。
委員	伝統文化という名のもとに神社関係の仕事を自治会長が担っている。自治会長が本来すべき仕事として取捨選択をしていく必要があると考える。

委員	第2次基本構想の資料で、宗像市からの交付金額が県内で突出して多いがどう読み取ればよいか。
事務局	宗像市のまちづくり交付金の特徴は使い道を地域が選べるという点であり、恐らく宗像市として地域に多くのお金を出していると見せたかったと思われる。今では多くの自治体が校区単位での交付金のシステムを取り入れている。制度もまちまちなので、現時点で10年前と同じような比較は難しいので、今回の基本構想にデータとしてお出しできるかは分からない。
委員	事務局からの説明にあったとおり、コミュニティや自治会の在り方を見直すという意味では皆さん共通していると思う。まちづくり計画、コミュニティや自治会の目的を見直す時期にきている。行政と地域が今後どのように関わり合っていくか、希望や現状どうなっているか意見を出すことが重要と考える。先ほど話が出た交付金については、私が関わっている自治体では宗像市のまちづくり交付金のように、用途を定めない方に進んでいる。一括して多くのお金が入る分、その中で地域のことをやっていただくことになる。自由度は高くなるが、その分責任が増す。その部分のことも今後意見を出しながら検討していければと考える。
7. その他	
審議会の議事録の作成について、要点筆記して各委員に確認をいただく。その後市HPに掲載する。ホームページに掲載するものは名前を入れない。	
次回開催	令和6年6月21日(金) 14:00～ @宗像市役所 北館103A会議室